



愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!牧師のいない間、お元気でしたか。みなさんのお祈りと愛のお陰で約3週間の韓国でのすべての日程を終え、無事帰って来ることができました。すでに今年も最後の12月を迎えています。また年を送るのだと!思われる日々だと思えます。

古代 그리스 神話に出てくる人の中でシジフォスという王がいました。特に彼は永遠の罪人の化身(けしん)として知られています。シジフォスは悪賢だったのに有名で、貪欲(どんよく)で人をだますのが好きだったそうです。それで旅行者と放浪者を殺害する時もありました。これに対する罰として彼は地獄で大きい岩を峠道(とうげみち)に転がさなければなりません。頂上(ちょうじょう)に持ち上げると再び下に転がされ初めから岩を持ち上げることを繰り返さなければなりません。この罰が与えられた正確な理由は分かりませんが、旅をする人々を殺害したせいだったそうです。アルプエルカミュという作家はシジフォスが岩を上を転がすが落ちることを知っていながらも上に転がす姿と、その岩が転がし落ちた時再び岩を持ち上げようとする姿をみて人間勝利だと評価しました。もしかすると我々もみなこのシジフォスのようではないのか考えさせられます。とつても新しいように年を迎えますが、すでにその末に来ています。そして、その末が来る事を知っていながらも我々はまた新しい年を送る準備をし、また新年を迎えようとしています。その意味で今年もクリスマスまでの待降節の前でどんな心構えで過ごすべきなのかを少しはためらってしまうのではないかと思います。春、夏、秋、冬の季節が毎年繰り返されても見あきないで、むしろ迎えるクリスマスを新しい希望をもって準備、新年を主にある祈りと望みで迎えることができますよう我々の主イエス・キリストの御名によって祝福します。

**地上のすべての教会は聖誕までの四週間を待降節(アドベント)と言われ、敬虔に過ごしています。すでに先週イ・スギョン先生のメッセージを通して聞いたと思います。待降節の意味は我々に来られる救い主イエスの誕生を待ち望む時期です。もちろんイエス様は2千年前に来られました。その初めの聖誕を言います。この人類の歴史の中にイエス・キリストが‘来られた’のは待降節の初めの意味であり、とつても大切な意味を含んでいます。一度‘来られた’のは再び来られると約束されたイエス様の再臨を信じて待ち望んでいる人々には信仰と期待感を増し加えるからです。神様の子として来られたイエス様は人類を救うためにご自分を十字架に明け渡しました。この感激が二つ目の待降節の意味をもたらします。**

二つ目、待降節は‘来られる’という意味を持っています。‘来られる’のは現在に含まれていていつでもイエス様を信じ受け入れる者にはその人の心に来られるからです。イエス様の初臨というのは歴史の中で起きた事実としてすべての人のための客観的なものであるなら、この二つ目の意味である来られるのはとつても個人的で主観的なものです。人類のための神様の救いが、私にまで訪れたという事実を確認する瞬間、我々はその主の愛と救いを受け入れ、感謝せざるをえないと思います。

三つ目の待降節の意味は‘未来に来られる’という意味が含まれています。待降節(Advent)は‘来る’、‘到着’を意味するラテン語‘adventus’から由来された言葉です。これはキリストの初臨を意味し、聖誕の時にだけ使われていました。それがいまは主の誕生をまえて準備するクリスマスの前の四週間を意味する言葉だけではなく、待降節のほかの名称としてたいりんせつ(待臨節)、こうりんせつ(降臨節)などもあります。一度すでにこの地に来られたイエス様はふたたび来られると約束されました。その日とその時はだれも知らず、ただ天の父のみがご存知です。(マタイ24:36)

たしかな事実は未来のある日イエス様は力のない乳飲み子の姿ではなく世をさばかれる王の王として必ず来られることです。

### (黙示録22:20)

その再び来られるイエス様をだれが待ち望むことができますか。2千年前に来られたイエスキリストを心に受け入れ信じている聖徒だけが待ち望むことができます。待降節の三つ目の意味であるやがて来られるイエス様に対する希望が私とみなさんに満ちていると信じます。

ですから待降節はむかし、ベツレヘムで生まれたイエス様を現在我々の心に受け入れ、やがて来られるイエス様を待ち望む恵みの季節だと言えます。するとこの恵みの季節である待降節にそのイエスを受け入れている私たちはいったい何をすればいいのかについてそれぞれ自分で考えると思います。今日の聖書本文には初めに来られたイエスを迎えた人としてバプテスマヨハネについて紹介しています。待降節を迎えながら我々はいま私の心におられるイエス様をどのように経験し、これから来られるイエス様をどのように備えるべきなのかについてともに学び、御言葉のとおり生かされますように祝福します。

### 1.バプテスマのヨハネは来られる主の道を備える者でした。

聖書は彼を主の道を備える者として紹介しています。3節：“この人は預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者の声がする。{主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。}」と言われたその人である。”

イスラエルはマラキ預言者以降神様の御言葉を聞けませんでした。この時期を新旧約の中間期だとも言われ、暗黒期だとも言われます。400年の間、神様は預言者をとおして言われませんでした。そういうわけで“沈黙期”だとも言われます。

400年の間、イスラエルは神様のおことばに飢え乾いていました。ところがユダヤの荒野で神様のお言葉を叫ぶ者が現れたのです。その名がバプテスマのヨハネです。彼はだれですか。彼は預言者イザヤをとおして紹介された荒野で叫ぶ声でした。

確かにバプテスマのヨハネは約束の通りに来られるメシヤなるイエス・キリストの道を整える者でした。バプテスマのヨハネも最初の待降節を迎えた一人に間違いのないと思います。主の道を準備していたバプテスマのヨハネのように我々も再び来られる

主の道をいつも祈りと御言葉によってまっすぐに準備する我々になると信じます。もし、今晚主が来られ、われわれの隠したすべてをご存知である主の御前に立つなら、我々は恥ずかしいことはないでしょうか。その方の前に立たされるでしょうか。

## 2. 来られる主を悔い改める心で迎えなければなりません。

本文1節と2節に“そのころ、バプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教えを宣べて、言った。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」”と書かれています。

主の道を備えるバプテスマのヨハネは“悔い改めなさい。御国が近づいたから”だと叫びました。なぜでしょうか。主の道を備えることは悔い改めることから始まるからです。来られる主は神様のひとり子です。聖い神様それ自体という意味です。ですから主を迎える前に、罪人である我々はみな悔い改めきよいたましいとして整えなければなりません。神様の民が神様に拝見するためにはきよくされることが当然ではないでしょうか。主が来られる時その御民は“悔い改め”によって聖くされます。きよい神様に会うためにはきよくされた者として、聖潔に整えなければなりません。そういうわけでバプテスマのヨハネは“悔い改めなさい”と叫んだのです。そして実際に多くの民たちが出てきて自分の罪を表わし、悔い改めました。**マタイ3章6節“自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けた”**イスラエルの人々はこのヨハネの叫びに従って自分たちの罪を告白し、洗礼を受けました。

聖誕を迎えようとしている聖徒なら一年を振り返ってみながら神様の御前で悔い改める心を持たなければなりません。隠れた自分の罪を告白し、祈りの部屋での悔い改めの涙の祈りが必要です。不従順の罪、自分の使命を果せなかった罪、御言葉のとおり生きることのできなかつた罪、主よりこの世をもっと愛した罪など。

多くの人々は罪に対する自覚と後悔はよくします。しかし、後悔の座にとどまらないうで、振り返って生活にふさわしい悔い改めの実がなければなりません。毎日涙だけ流す聖徒ではなく向きを返ってキリストに似ていく聖徒にならなければなりません。クリスチャンプレイズチャーチのすべての聖徒らはキリストを待ち望むこの待降節に他人ではなく自分の姿と生活を振り返って悔い改め、変えられた聖徒として生きようと決断し実践して行くべきだと思います。

## 3. 来られる主を迎えるため自制しなければなりません。

本文の4節に“このヨハネは、らくだの毛の着物を着、腰には皮の帯を締め、その食べ物はいなごと野蜜であった。”と書かれています。聖書は主の道を備えているバプテスマのヨハネの衣食住（いしょくじゅう）にこれほど細かく説明しているのでしょうか。それがまさに人々が一番大切にしていることであり、我々の人生においても最高の価値として思っているものだからです。しかし、バプテスマのヨハネは自制する生き方とおして主の道を備えました。

バプテスマのヨハネが住んでいるところは荒野です。ルカの福音書1：80をみるとバプテスマのヨハネについて“さて、幼子は成長し、その霊は強くなり、イスラエルの民の前に公に出現する日まで荒野にいた。”と書かれています。バプテスマのヨハネは幼い少年期から荒野で生活しました。荒野は人もなく寂しく、孤独です。荒いし、不便で、環境的には住めるところではありません。荒野は騒がしい世とは違う場所です。人々のよらない荒野は神様を黙想し、霊的な訓練を受けるのに最上（さいじょう）の場所だったのです。

バプテスマのヨハネの着た服はらくだの毛の着物でした。当時貧しい人々の姿からよく見られる様子でした。当時良い服とはやわらかい服と派手な服でした。きっとバプテスマのヨハネの服とはとっても対照的で多くの人々があこがれてない服だったかも知れません。おそらくらくだの毛の着物を着ていたバプテスマのヨハネは当時の罪に満ちた世にくだりあつたことを宣布する自制の姿を表した姿だと思います。

バプテスマのヨハネの飲食はいなごと野蜜でした。東洋ではいなごを食用に使っていますが、ユダヤでは身分の低い人たちが食べていました。いなごと野蜜は荒野の生活をする貧しい人たちの食べ物でした。

もちろんみなさん！人が生活するのに着る物、食べ物、住むところはとっても大切です。それがまさに人々の関心事でもあります。食べ物、着る物が溢れる時代です。そういうわけで、いつの間にかよく食べ、よく着ることこそが神様からの祝福だと考え込んでいます。しかし、一番低いこの世に来られたイエス・キリストを私たちは覚えなければなりません。そして生活においてもっと自制し、この地に来られた神様の愛とイエス・キリストの救いを黙想しながら自分と罪の中にあるこの世のために祈らなければなりません。最後の時代に、飲んで、食べる事に陥られ神様を愛さず、神を覚えようとしめないこの世代をみならなくてはなりません。“忙しすぎて祈れませんでした。忙しくて礼拝に来れませんでした。忙しくて聖書を読む時間がありませんでした。”これは決して神様の御前でほこりではありません。むしろ、はずかしいと思ひ、自分は一体なにに熱心でこの一年を走ってきたのか振り返るこの待降節となりますようお祈り申し上げます。

愛する信仰の家族のみなさん！イエス様は当時の派手なエルサレムのお城に来られませんでした。やわらかい服を着て、食べ物、飲むものが溢れる人々を通して来られませんでした。荒野の叫び声であったバプテスマのヨハネの声に従って来られました。悔い改め、恵みを求める人々にやってきました。祝福とてくださる豊かささえ自制し罪の赦しと神様の救いと愛と切に求めている人々にやってきました。いまも生きておられる我らの主はそのものたちに今日も訪れると信じます。私とみなさんがそのようであるように祈ります。インマヌエル！この地に来られた以後、今日も我々とともにおられる主の恩寵と愛が、神様の救いに満たされる2012年二週目の待降節となりますよう主イエスキリストの御名によって祝福し祈ります。アーメン！

## 【待降節(アドベント)の祈り】



春を待ち望む冬のように、心の貧しい人々はみな  
再び来られる主を待ち望みます。

飼い葉おけのように、汚れた心を空にしてきよい心を持って  
再び来られる主を待ち望みます。

主だけにささげる私の贈り物を用意し  
再び来られる主を待ち望みます。

自分の利益だけを追い求めていた目を閉じ  
再び来られる主を待ち望みます。

握りしめていた欲張りの手を開いて惜しみなく分け与え、  
再び来られる主を待ち望みます。

高ぶりを砕いてへりくだり  
再び来られる主を待ち望みます。

騒がしい思いとしゃべりを捨て、悔い改めと涙をもって  
再び来られる主を待ち望みます。

失われた信仰の始めの愛を取り戻すために  
再び来られる主を待ち望みます。

ひそかに捨てた私の十字架を再び負い  
再び来られる主を待ち望みます。

2000年前にこの地に来られた主よ！  
マラナタ！また再び早く来て下さい。  
この聖誕の季節に  
あなた主イエスキリストを切に待ち望みます。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン！